

図書館だより

NO. 10

2017年2月1日

◇1月の学年別貸出冊数

学年	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
貸出冊数	219冊	394冊	86冊	71冊	72冊	6冊

総貸出冊数 842 冊

◎ 2月の開館スケジュール

原則、毎日開館ですが、2月は入試のための休業日が多いので注意してください。

閉館日は日曜日、休日、(入試のための休業日) (3, 4, 5, 6, 11, 12, 19, 24, 25, 26, 27日)

◎ 蔵書紹介

図書館には、みなさんがいつも見ている本棚（**閲覧室所蔵**となっている）以外にも閉架（へいか）といわれる古くなって利用頻度が低い本や貴重な本などが納められている場所（**書庫所蔵**となっている）があります。

その書庫所蔵本の中で、今回紹介するのは『朝日新聞縮刷版』です。図書館には**昭和15年から現在までの朝日新聞縮刷版**が基本的に月ごと保管されています。過去のニュースや事件をさかのぼり、歴史を検証するにはぴったりの資料です。また、当時の**広告**も写真やイラスト入りで掲載されているので、その時代の雰囲気や風俗も同時に味わうことができます。

また、新聞関係では『**新聞集成・明治編年史**』（文久二年（1862）～明治四十五年）『**新聞集録・大正史**』『**新聞集成・昭和史の証言**』（昭和元年～昭和二十年）といった新聞の抜粋本もあります。

つまり、これらの資料により日本の近代新聞の草創期から現在まで新聞を通じて日本の近代化をたどることができるのです。

この他、閲覧室には日々の**新聞が3紙**、雑誌コーナーには『**月刊新聞ダイジェスト**』があります。こちらは、日本国内で発行された新聞の記事を集約し、1か月のニュースを1冊にまとめてあります。調べものや小論文・面接対策に活用できるのではないのでしょうか。

お知らせ 《直木賞フェスティバルについて》

2月13日（月）～2月28日（火）の期間、「直木賞フェス」として

新着図書コーナーに直木賞関係本を並べますので、ぜひ読んでみてください。

① 第4回「高校生直木賞」候補作品と第1回～第3回「高校生直木賞受賞作」

高校生直木賞とは、高校生が選ぶ「直木賞」のこと。各年2回分の直木賞候補作の中から、全国の参加校の高校生たちによって、最終候補作を選び、最終的に受賞作を決定する。本校も第3回から参加している。

2月末までに上位2作品を決定し、次に送られてくる補足の作品合わせて6作品のなかから、富士高としての順位を決定。その結果を持って、5月に学校を代表して一名が文藝春秋にて他の高校生と議論を行い決定。

② 第127回(2002年上半期)～第156回(2016年下半期)の「直木賞受賞作」

※ 「直木賞」とは、1934年文芸春秋社長だった菊池寛がすでに故人となっていた友人、直木三十五の大衆文学の質の向上の功績を讃えて設立した文学賞。年2回授賞。純文学の「芥川賞」とともに作家の登竜門となっている。

☆図書館を活用しましょう 第7回《番外編—論文を書くために2：パラグラフ・ライティング》

論文の書き方として一つの提案

伝わりやすい論文の書き方として一つの提案をします。それは、**パラグラフ・ライティング**の形式で書くことです。**プレゼンテーション（発表）**にも全く同じことが応用できます。

グローバル・スタンダードとしてのパラグラフ・ライティング

英語圏ではこのパラグラフが書けることが文章の基本という合意があり、小学校低学年から習い始めます。文を作成する次の段階が、意味のある最小単位のまとまりとしてのパラグラフを書くことになり、これは中学校から大学院までのアカデミック・ライティングおよび、ビジネス文書でも基本的な常識とみなされています。論文の役割は著者の組み立てた論理構造を読者に正確に伝えることなので、英語圏では論理構造に基づくこの方法がグローバル・スタンダードとして論文の記述法として定着しています。

伝わりやすい論文

パラグラフ・ライティングを基礎にすることで、読み手も書き手も同じルールを共有するため、読むときには必要な箇所をすばやく探し出し、効率的に読むことが可能になり、書くときにはルールを習得すれば文章の巧拙に関わらず読み手を意識した論理的でわかりやすい文章を書くことが可能となります。論文は「読み手に（正確に）伝わる」ことが大事です。**パラグラフ・ライティング**の形式の文章は、美しくもなく感銘を与える文章ではありませんし、その必要もありません。しかし、形式にそって書くことは「型」に慣れてしまえば、課題に対する構想（具体策等）が決まれば、短時間で書き上げることができるという利点があります。

ルールのある意味段落

パラグラフ・ライティングは、**ピラミッド状の論理構造**に基づいて各文章を配置すべき場所を定める方法です。パラグラフとは、ここでは、以下のルールのある意味段落であると定義づけしておきます。

- ① **一つのパラグラフでは一つのトピック（主張）だけを述べる。**
- ② **一度述べたトピック（主張）を他のパラグラフで述べない。**
- ③ **パラグラフの先頭には、そのパラグラフの要約文を置く。**

このルールは、パラグラフが変わるということは、トピックが変わることを意味しますし、パラグラフが変わらないなら、トピックは同じままであることを意味します。また、各パラグラフの先頭文でそのパラグラフで述べるのが要約されていますから、読み手に取って先頭文を読めば粗筋がわかり内容の理解が容易です。「1パラグラフ1トピック」が基本となり、「トピック（主張）+根拠」でパラグラフが構成されます。（プレゼンの**スライド**も1トピックで1枚にします。）

全体の構成

序論：総論：問題提起⇒解決案（筆者の主張）



本論：証明：主張の内容を、下位分類、分割し、各パラグラフで段階的に正当性を立証していく。



結論：総括、今後の課題の提示など

序論では、絞り込んだ問題提起をし、解決のための主張を抽象論ではなく具体的に述べます。

本論では、証明のための議論を根拠（理由や具体例）を提示しながら過不足なく展開します。

各パラグラフ内は構成要素が特定しており、①主張、②主張の理由づけ、③外部からの引用、主張および理由づけの正当性を証明するための論拠となるデータ、④論拠および理由付けから主張を導き出すための裏づけとなるより一般的な価値観となります。**主張は基本的にはパラグラフの冒頭**におきます。

○ **参考図書として図書館にある本をいくつか紹介します**

論理が伝わる - 世界標準の - 「書く技術」～「パラグラフ・ライティング」入門：816ク (BLUE BACKS)
新版 論文の教室～レポートから卒論まで：816ト
理科系の作文技術：816キ
理系のための～論理が伝わる～文章術：816ナ
13歳からの論理的な文章のトレーニング～「説得力のあるロジック」が身につく80問：816オ
レポートの組み立て方：816キ

